

昨年10月に行われた「市民合唱祭」の様子。美しいハーモニーを披露しました



豊かなハーモニーを目指して

今月の表紙は、女声コーラスグループの「コーラス フエルマータ（代表 大園範子さん）」です。毎週火曜日、主に東区民センターで活動しています。

表紙から

ぐにうち解けて練習はいつも和気
あいあいと進むそうです。歌に取
り組む姿勢は皆さん真剣そのもの。

現在は四十三人が
参加しています。

た　昨年七月にはクルーバ活動が長年続いてきたことを記念して、単独のコンサートを札幌サンプラザで開催しました。当日、会場は満員になり、皆さん楽しく歌うことができ大成功だったそうです。

◆ ◆ ◆

代表の大園さんは「これからも腹筋を鍛え、おなかの底から声を出して、みんなで明るくコーラスを楽しみたいですね」と話します。これからも、心を一つにして豊かなハーモニーを目指していきます。

酪農業の成立

ひくしがすとり

第24回 村は家畜とともに 「牛と歩む日々」(三)

村は家畜とともに ～牛と歩む日

牛乳販売組合が設立されます。この組合は、牛乳の市販に加えて、

練乳会社に原料乳を供給しました。二年後、組織を拡大して、札幌酪農組合に名称を改めます。

第一次世界大戦が終結した一九一九（大正八）年以後、田本経済

は不況に見舞われ、酪農業も苦境に立たれます。そこで、農家は酪農経営を守ろうと組織化を進め

組合は改組して札幌酪農信用販売
ます。戦争終結の翌年、札幌酪農

購買生産組合になりました。このとき佐藤も理事に就任しています

大正時代は、雁来村で酪農業が盛んになってきた時代でもあります

す。農家の中には、酪農を事業とする人たちも増えてきました。

一九一五（大正十四）年 佐藤
は周辺の農家で初めてサイロを建
てました。直怪五

正末ころ、
七ドル、高さ九トル
のサイロです。朝

と牛舎(大)

のサイロ

雁来木
と牛舎まで戻した
そうです。

牛乳生産者の組織化が進む
一九一五（大正四）年、札幌乳搾取業組合を母体として、



雁来村のサイロと牛舎(大正末ころ)

（人正十四）年、佐藤で初めてサイロを建てました。直径五
・七メートル、高さ九メートルのサイロです。朝には牛舎から約四
キロ北にある放牧地まで牛を連れて行き、夕方になると牛舎まで戻した
そうです。